

あいさつ

221220 村松

少年少女マラソン大会入賞者紹介

全国書画展覧会入賞者紹介

きょうは、若林校長先生がお出かけなので、かわりに私が話をします。

手話というのを、みんなは知っていますね。耳の不自由な人が手を使って話す言葉です。

では、この手話はなんという意味でしょうか。(実演する)

これは、あいさつという意味なんですよ。お互いに頭をさげて、あいさつするところからきています。みんなもやってみましょうか。(全校でやってみる)



さて、きょうはこの「あいさつ」の話です。

私は、あいさつでうれしいことがあるのです。それはね、君たちの先輩のお兄さん、中二のMくんのことです。このお兄さんとは、朝に小川駅のそばでたまに合うのですが、必ずMくんから、あいさつをしてくれます。私が気がつかないでいても、Mくんは必ず気がついて先にあいさつをします。また、百人一首がすごく強かった中一のTくんも、いつもいつも先にあいさつをしてくれます。

そうそう、朝早くから学校のまわりを走って、そのあと校庭でバットの素振りをしている六小の子どもたちがいます。この人たちも、朝7時前に体育館のところに私の姿が見えると、遠くの南門のところから大きな声で、「おはようございまーす」と先にあいさつをしてくれます。

先にあいさつができる人は、本当に素敵で素晴らしいですね。みなさんはどうですか。

先にあいさつをする人ですか？

相手から先にあいさつをされてから、あいさつをかえす人ですか？

それとも、あいさつをされてもあいさつをしない、知らんぷりをする人ですか？

先にあいさつをする人は、友だちにもやさしいです。友だちもたくさんできます。あいさつはいい人間関係をつくれますね。

六小のみんなが、先輩のMくんやTくん、そして朝走っているお友だちのように、先にあいさつができる人になってもらいたいなあと 생각합니다。

きょうはあいさつの話でした。

(裏面に「先生方へ」があります)

<先生方へ>

あいさつは人間の基本とされています。

「人に好感を持たれたければ、誰に対しても挨拶をすることだ。挨拶ほど簡単でたやすいコミュニケーション方法はない。」

これは、「人を動かす」という世界的なミリオンセラーを書いたデール・カーネギーの言葉です。

また、今は亡き評論家の扇谷正造（おうぎや しょうぞう）は、

「人生というものは旅である。ただし、この旅は片道切符しかない。往きだけで、かえりの切符のない旅行である。とすれば、きちんとしたおじぎと挨拶とは、その旅を愉快に、かつ有効にできるパスポートといえないだろうか。」

と言っています。

わたしはこの二人の言葉を、心にしっかりと刻んでいるつもりですが、なかなか難しいです。わかっているのと実行できるのはちがうのですね。子どもたちはなおさらでしょう。

このへんのところは、学年・学級の実態に合わせてご指導ください。なお、あいさつをしてもあいさつを返せない人がいたときに、怒ったり責めたりすると「あいさつ」したことが無意味になることも付け加えておいてください。

とにかく、自分からあいさつしたことが大事、これを徹底したいですね。

<資 料 あいさつの名言>

挨拶といっても、黙礼だけの挨拶では意味がない。

ちゃんと顔を上げて、声を出すことが肝心なのだ。

小出 義雄 [こいで・よしお] (マラソン・中長距離選手の指導者、1939～)

私はしつけとは押しつけだと考えます。

挨拶をする、お年寄りを敬う、他人に迷惑をかけないなど、人として生きていく上での原則をしつけるのに、論理的な裏づけが必要でしょうか。

畑 正憲 [はた・まさのり、ムツゴロウ]

しつけ三原則——「ハイの返事」「あいさつ」「はきものをそろえる」

森 信三 [もり・しんぞう] (哲学者・教育者、1896～1992)